

大会時・コロナ禍での取組

- ・東京2020大会以前より、働き方改革の一環として取組を開始
- ・2021年8月：テレワーク導入に伴うオフィス縮小で一部移転
- ・2022年春：一部移転（予定）

人の流れ

きっかけ

 以前より実施 オリバラ コロナ禍

- テレワーク・・・実施率約7割（工場や物流センターは通常通り）
- オフピーク通勤・・・出勤時間を3択とし上長の許可で変更可能に
- 会議等のオンライン化
一部顧客ともオンラインでの打合せ。他、電話・メール・FAXを多用
- 計画的な休暇取得の促進・・・15日/年の有休取得を促進
- 書類等の電子化・・・社内申請関係は従前より電子化済

物の流れ

きっかけ

 以前より実施 オリバラ コロナ禍

- 受発注時期の調整
 - ・大会時のお願いとして時間指定不可、早めの注文をメール等で発信
 - ・自社の物流センターで直接受取も可
- 配送ルートの変更
事前に競技会場近傍にある取引先をピックアップし、都の各種情報を運送会社に提供の上、配送ルートを変更

取組ポイント

- 事務・営業系の社員にノートPCを配布。基幹システムへの接続で勤怠状況を把握
- トップダウンによる会議等のオンライン化

取組ポイント

- 前日に荷積みしておき、当日は車庫から直送に変更
- 契約内容に応じて、自社の基幹システムの利用により在庫状況・配送状況等を検索・把握できるサービスを展開
- 各運送会社との連携

今後の取組

人の流れ

継続して取組を実施予定

 テレワーク

現在実施率5割程度。今後も継続

 オフピーク通勤 計画的な休暇取得の促進（今期20日/年 目標）

物の流れ

 受発注時期の調査

今後も継続するが、社会情勢的な制約等により、こちら側から要望しても顧客次第になってしまうのが現状

【東京2020大会を振り返って】

- ・テレワークについては、できる部署とできない部署があり、自社の労働組合から公平性について指摘があった。
- ・東京2020大会時では、緊急のもの以外、物流センターでの直接受取は極端に多くはなかった。